シリーズ4 高度成長期の産業活動

DISC.13 礎としての電源開発

佐久間ダム　総集編　1958年　96分

電源開発株式会社は、パンク・オブ・アメリカからの借款で佐久間発電所を着工する。天竜川水系に巨大な重力ダムを建設するこのプロジェクトは、電力不足に悩む当時の日本にとって一つの希望であった。本作は電源開発が岩波映画に発注した工事記録の総集編で、3部に分けて順次撮影されたシリーズを解体編集したもの。

作品提供：一般社団法人 記録映画保存センター

ルボルタージュ・炎　1960年　38分

佐久間太力発電所が発電を開始した1956年、26万5千キロワット、我が国最大出力となる東京電力の横須賀火力発電所の工事が始まった。本作は発電技術本体の建設を扱う。横須賀火力が運転を開始した1960 年前後、日本の火力発電量は水力発電量を超えて、電源構成が「水主火従」から「火主水従」へと移行した。

作品提供：一般社団法人 記録映画保存センター

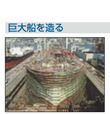
DISC.14 新しい鉄が拓いた世界

海に築く製鉄所　八幡製鐵戸畑製造所 建設の記録　1959年　57分

業界初の世界銘行借款を得た八幡製鉄は、第二次合理化計画の一環として新しい鉄鋼一貫工場、八幡製鉄所戸畑製造所の建設に着手する。相川部分が海面埋立で造成された戸畑製造所。浚渫と埋立、重量設備の基礎構築が丁寧に描かれる。戦後初期の鉄鋼業の姿を知る資料として、豊富な情報を持つ貴重な映像記録である。

作品提供：一般社団法人 記録映画保存センター

巨大船を造る　1968年　29分



1968年は、日本のGNPが世界第２位となった年。三菱重工の初のコンテナ船が日本船舶に引き渡された北米航路に就航した。翌年には鹿児島県喜入に輸入原油の大規模貯蔵基地が完成する。巨大タンカーは、世界各市場と全国各地船業の花形商品である。30万トン級巨大船の構造設計、運用面や経済性に係わる設備技術などを紹介。

作品提供：株式会社 ポルケ

超高層霞が関ビル　1968年　42分

1968年に竣工した三井霞が関ビルは、日本初の超高層建築物である。その建設記録である本作は、設計施工という視点から超高層建築を可能にした諸要因を説明する。超高層建築の技術は急速に進歩し、オフィスビルだけでなく、共同住宅にも適用されてその風景を大きく変えている。本作にその原点を見ることができる。

作品提供：株式会社 カジマビジョン

DISC.15 技術立国を支えた人々

ガソリン　1962年　21分

「文明の歴史は燃料の歴史である。」と言い切って始まる本作。前半ではエンジン内でのガソリンの炎化と燃焼、後半ではプラント設備内での原油の分留～改質～ガソリン誕生という外部からは見えない世界の視覚化であり、それをモンタージュした「スピードの支配」の感覚である。高度な科学映画の技法を駆使したもの。

作品提供：株式会社 東京シネマ新社

スピードトライアル　1966年　35分

トヨタ 2000GTは、1967年発売のスポーツタイプの乗用車。発売に先立つ 1966年、茨城県つくば市谷田部の自動車高速試験場で１万5000キロメートルのスピードトライアルを行なった。本作はこの延べ4日間の高速走行、ドライバーとピットのスタッフの見事なチームワークの記録である。

作品提供：一般社団法人 記録映画保存センター

シップヤードの青春　1969年　42分

1960年代を通じて造船の技術は大きく変わった。船体をいくつかのブロックに分け、工場の床で組み合わせる行程は、次第に流れ作業となっていく。「船を造る」実感が次第に薄れていく状況下、造船業界が発注した本作は、「船を造る仕事」を改めて見つめ、働き甲斐を見出すよう若い作業者に訴えている。

作品提供：一般社団法人 記録映画保存センター

ロボット　1984年　21分

工場など生産現場で活躍する産業用ロボットでは、日本は開発と生産でも応用でも世界の先頭を走ってきたが、更に一歩前へ出ようとする、多くの研究開発課題が待ち構えている。本作では人間に近い知能と自由度を追求する 80年代の開発努力、当時の試みなどが、さまざまに報告される。

作品提供：株式会社 映像プロ

DISC.16 国土を変える鉄道と道路

銀座の地下を掘る　1964年　36分

東京オリンピックに間に合わせるべく建設されていた日比谷線は、銀座線、丸の内線に対して直交するため、その頻度や駅は既設路線の下をくぐり抜ける「深い」地下鉄となった。しかも、都電の走っている路上交通を妨げないように進むなければならない。シールド工法以前の、「深い」地下鉄への一歩を伝える記録である。

作品提供：株式会社 東宝スチラ（日映アーカイブ）

地下を進む都市開発　シールド工法　1967年　24分

1960年代以降、日本の各地の大都市で地下鉄のネットワークは急速に拡大していった。地下鉄がとけはない。上下水道、電気と電話、ガスなどラインフライの敷設、それらを統合した共同溝など様々な目的で地下利用が進んだ。本作は、そこで大きな役割を果たしたシールド工法の技術を端広く紹介する。

作品提供：株式会社 カジマビジョン

東名高速道路　建設篇　1969年　45分

東京 IC と小牧 IC を結ぐ名神高速道路に接続する、東名高速道路の建設記録である。全線開通は大阪万博を前にした 1969年。当時の高速道路の計画と設計の考え方を、また その後の国土を隅々まで結ぶ高速道路の整備と土木技術の安全も理解するために有用な資料である。技術記録である。

作品提供：株式会社 東宝スチラ（日映アーカイブ）

見えない鉄道員　1970年　20分

本作の主人公である「見えない鉄道員」は、コンピューターシステムである。この時期の国鉄では、鉄道業務のあらゆる場面にコンピューターによる情報処理システムが登場し、自動化・半自動化が急速に進んでいた。情報化初期の鉄道と鉄道員に求められた職種変革を描き、その後の大きな変化や事故に繋がる内容を持つ。

作品提供：一般社団法人 記録映画保存センター

DISC.17 食生活・生産と流通の変貌

一粒の麦　1962年　27分

ビール製造は食品産業のなかでも大規模で装置化が進んでいるが、同時に麦芽、ホップ、水など自然の産品にも深く依存している。本作は、主要原料である麦芽になる二条大麦の品種改良の努力を描き、適応という生命の働きを考えさせる。

作品提供：東京国立近代美術館フィルムセンター
著作：株式会社 クリックス

日本のさけます　1964年　29分

日本のサケ・マス漁業は、戦後いち早く繁栄を取り戻すが次第に乱獲を指摘されるようになり、資源保護を目的す国際的制約を受けるようになった。そうした時期に製作された本作は、産卵のために北海道や本州北部の母川に回帰するサケ・マスの人工孵化と稚魚の放流による日本の資源保護の努力を丁寧に描いている。

作品提供：株式会社 CNインターボイス

コールドチェーン　低温で生鮮食品をはこぶ「しくみ」　1965年　27分

日本の家庭の冷蔵庫は、1960年代に氷冷蔵庫から電気冷蔵庫に転換した。「低温流通体系」などと訳される コールドチェーン は、この時期に日本に導入され、食生活に革命的変化をもたらした。本作は、生鮮食品の保存性を高め価格を安定させるべく、流通技術の概念と意義を、主として主婦を対象に説く。

作品提供：一般社団法人 記録映画保存センター

野菜の値段のからくり　1972年　40分

1971年、農林省は野菜などの価格暴騰に総合的に対応するため、生鮮食品価格安定対策本部を設置。その年に登場した本作は、野菜の市場と価格決定の仕組みを生産農家の立場から分析。消費者が負担する値上がりは、消費者自身をも生産者をも益するものでなく、寄与流通経費に充てられて仲買を潤すのみと訴える。

作品提供：社団法人 農山漁村文化協会

DISC.18 技術開発への挑戦

電子の技術　テレビジョン　1961年　26分

テレビの爆発的な普及期に登場した本作は、受像機の技術と生産工程に焦点を当てる。前半は受像機の仕組みを解明し、後半は電子部品、カラーブラウン管とシャドウマスク、トランジスタ化、プリント配線化された小型受像機、真空管の改良などが紹介される。初期テレビ技術と受像機生産現場の貴重な映像記録である。

作品提供：株式会社 東京シネマ新社

振動の世界　1971年　29分

機械工学の重要な課題である振動の制御（「共振」）に注目して系統的に紹介する。冒頭の電子顕微鏡による原子の振動で、振動が自然界の普遍的な現象であることが示される。船舶、建築、橋梁という構造物等について解ける、大型化、高速化があらゆる分野で創的に進行した時代を映す理科・工学教材である。

作品提供：東京文映 株式会社

溶接　未来へつなぐ先端技術　1985年　27分

金属材料特に鉄鋼は戦後日本産業発展の基礎となった素材である。しかし、金属の特性を活かすには加工技術、とりわけ溶接技術の高度化が必要であった。本作は、重工業界の代表的な研究所を舞台に、当時の溶接技術開発の最前線を追いている。60年代から80年代へ、日本産業の高度化が溶接という一つの技術に凝縮されている。

作品提供：株式会社 カジマビジョン

明日をひらく新素材　1986年　30分

落としても割れない陶器、熱を加えると記憶していたもとの形に戻る金属――素材への伝統的なイメージを更切るような多様な「新素材」が、開発され普及していく時期に本作は製作された。希少物質の創造から新物質の創造へと話を進め、原子操作に繋ぐ手法を説明して、今日のナノテクノロジーの入り口まで導いている。

作品提供：株式会社 カジマビジョン

バイオテクノロジー　農業のあすが変わる　1986年　30分

この作品が登場したのは、懸案の日米農産交渉が妥結して牛肉・オレンジが自由化された年。アメリカでの、人工交配による新品種ポマトの生成及びの戦略物質の品種改良を紹介。バイオテクノロジーのその後の発展は目覚ましいが、ヨーロッパと日本では遺伝子組換え作物に対する人々の警戒心は解けていない。

作品提供：株式会社 毎日映画社

シリーズ5 高度成長期の社会と人間

DISC.19 変わる環境と健康の危機

風土病との闘い　1962年　27分

1961年に東京大学伝染病研究所寄生虫研究部が、奄美大島でおこなった寄生虫（フィラリア）の調査の報告である。治療も受けられずいろいろ苦しむ村の青年の姿やフィラリア患者の診察や生活調査、蚊の撲滅対策を指導し、早期の検診を徹審する。そして、本作は奄美大島の独特の生活の習慣や風俗の異重なる記録でもある。

作品提供：株式会社 桜映画社

大地からの警告　新農薬開発のために　1967年　27分

当時、単位面積当たり世界一農薬の散布する量が多かった日本の農業への警鐘であり、農薬の危険性への啓蒙である。農薬を使うことで起きている さまざまな症状について語られる。「農薬なしでは農業は考えられない」状態であった日本の農業。有機水銀剤の農薬は その後国際的に問題となり、1968年には使用禁止となる。

作品提供：一般社団法人 記録映画保存センター

見なおせ食品添加物　1970年　21分

日本では食品添加物として、化学合成品が約350種許可されている。本作では、その種類について さまざまな用途のあり方を、具体的な食品にどれくらい使われているかを説明している。そして、食の安全をめぐるさまざまな社会状況を、いち早く捉え、食品添加物について分かりやすく解説している。

作品提供：東映株式会社 教育映画部

地球と生命　フラスコの中のエコロジー　1973年　23分

蛍光灯を大陽に、フラスコを地球に、グッピーを人間に見立て高温の実験。この実験の最後に一滴の農薬がもたらされると、原生動物は死に、次第にバクテリアだけの世界へと向かっていく。東北大学理学部東京農業大学の協力による、地球と生命とのかかわりを、科学実験のもとに分かりやすく視覚化した作品。

作品提供：株式会社 映像プロ

異常気象　大気の流れをめぐって　1975年　30分

映画の冒頭、1960 年代から世界各地で気候の変動による異常気象が発生し、それによる災害や飢饉などが起きていることを紹介する。本作は、1950 年代から70 年代にかけて異常低温が多く発生していた時期に製作され、異常気象の原因の一つではないかとされる、大気の流れをかかわりすぎ実験的に視覚化する。

作品提供：一般社団法人 記録映画保存センター

DISC.20 労働と人生

機械文明の騎士たち　1960年　24分

津上製作所創業者である津上退助は、機械工業の基礎である長さの原器、ブロックゲージの国産化に成功。津上製作所はこのブロックゲージの正確さを基礎として精密測定機、工作機械の製造を行っている。本作は、完全な平面をつくるために10万分の1ミリの精度に あがような 努力を重ねる人びとの姿に重点をおいて描いている。

作品提供：株式会社 日経映像

バスケットボールと彼女たち　1964年　27分

三菱電機名古屋製作所の女子バスケットボール部は、1956年に設立され、めざましい活躍をした。こうした企業スポーツは1980年代まで隆盛をみが、この背景には企業知名度アップばかりでなく、従業員の意欲向上や人材育成の意義も担っていたことがある。女子バスケットボール部の実態を紹介し、職場とクラブ活動の在り方を示唆する。

作品提供：一般社団法人 記録映画保存センター

海底炭鉱に生きる　池島からの報告　1983年　54分

長崎県西北部に位置する西海国立公園の海に面する池島と墓島の海面下650mに、坑道延長約96kmに及ぶ池島炭鉱がある。最盛期の1985年には150万トンを超える石炭を掘りだした炭鉱の様子を紹介。石炭産業崩壊の日々で生き残り続ける理由として、最新の機械技術の導入だけでなく、安全を最優先した労使の協調体制があることを映画は示している。

作品提供：株式会社 RKB映画社

DISC.21 消えていく暮らしと技

和菓子　1965年　26分

和菓子の原型は米を蒸し、日でつく餅。奈良一平安時代には中国の菓子の製法が輸入され、安土桃山時代には南蛮菓子の製法が入り、茶道のお茶請けとして食されることになる。和菓子が諸外国の影響を受けながら、次第に人々の間に広がっていく姿を、日本文化の流れとして示すだけでなく、その伝統を現代に生かす取り組みも見せる。

作品提供：株式会社 桜映画社

漆器づくりの要具　手仕事の世界　1981年　42分

漆器は日本の代表的な手工芸品であるが、これを支えているのは、漆器を作る人びとだけではない。それを作るには、研ぎ炭、漆塗り筆、漆刷毛、蒔絵筆など多くの要具が必要とされる。本作では、こうした要具を作る職人に焦点を当て、その要具づくりの工程を丁寧に描き、漆芸品の伝統文化のありかと、伝承する人びとの姿を明らかにする。

作品提供：池田プロダクション

越後上布　1982年　43分

越後上布は、新潟県の魚沼地域でつくられている平織りの麻織物である。1955年、越後上布と小千谷縮は重要無形文化財に指定された。本作はこの工程を原料の刈り取りから地機で織るまで丁寧に追う。冬、雪暮らしの生活のなかで、人びとが辛抱強く、その手間を楽しみながら織っている姿を、一つの文化として記録している。

作品提供：一般社団法人 記録映画保存センター

有明海の干潟漁　1989年　33分

有明海は、九州北西部４県にまたがる九州最大の湾。干潟の波が大きい肥沃な干潟にはムツゴロウを はじめ、特有の魚介類が豊富に生息している。沿岸に住む人々は、農業のかたわら、オカズとりや小遣い稼ぎの漁をして、その暮らしを支えてきた。本作では、その映画撮影を漁法と漁具に焦点をあてて記録している。

作品提供：株式会社 桜映画社

シリーズ6 歴史と文化の再発見

DISC.22 村の文化の再発見

刈干切り唄　1959年　42分

熊本県、東北部の阿蘇山と外輪山を囲む日向の高干棚に伝わる民謡、刈干切り唄をテーマにした作品である。刈干切り唄は、家調を帯び、農の歌からうたいよげな労働唄、この唄を入口に、画家の小島善太郎の高干棚への訪問記のような形を取りつつ、昔より行われている焼畑な どこの土地の農民の生活が生き生きと描かれる。

作品提供：株式会社 記録映画社

日本の稲作　そのこころと伝統　1974年　42分

日本の食料の主流をためる米。その稲作の歴史と伝統の在り方を記録した作品。旧正月の行事に始まり、種もみの拡い、苗代の準備、田植え、雨乞い、秋の収穫に至るまで稲作が一年を通じて神事であることを描きます。日本各地に取材を敢行、日本の稲作と その儀礼を四季の移り変わりの行事と共に捉えている。

作品提供：一般社団法人 記録映画保存センター

石垣島川平のマユンガナシ　1982年　38分

沖縄県八重山群島の石垣島に位置する西表島の海に面する 沖縄本島にまつわる祭祀を記録した作品である。神の名代となり、家々を訪れるマユンガナシ、その容姿や仕草は不気味でもあり、コーモ ラスでもある。石垣島の川平（かびら）で、夜年生まれの村人によって行われる祭祀。民族の姿形を映像で見る楽しさが溢れる。

作品提供：株式会社 東京シネマ新社

DISC.23 町に息づく歴史と文化

京舞　四世井上八千代　1978年　43分

京都の祇園に伝統として息づく上方舞―京舞を 人間国宝である四世 井上八千代の人と仕事から記録した作品。四季折々にわたる祇園の風物を背景に井上流の舞を紹介。京舞が歌舞伐などの歌舞音曲を吸収しつつ、今に至る発展を秘せていることを指摘。四世井上八千代の伝統を継承する一流芸姿をあますところなく伝えている。

作品提供：東京国立近代美術館フィルムセンター
著作：本郷慶子

鬼すべ　1983年　58分

太宰府天満宮で行われる神事で鬼を捏ねて懲らて追い出 分行事を記録した作品。鬼に炎という姿形を与え、炎を中心に堂内の鬼を追い出す者（鬼すべ）と鬼を守る警護（警固）の者との攻防。裏々と盛り準備の模様が紹介され、本番の神事への期待が高まる。この神、一回限りの鬼すべ神事を迫力ある映像で捉えている。

作品提供：株式会社 RKB映画社

浅草酉の市　1986年　33分

11月の酉（とり）の日に鷲神社で行われる祭りを記録した作品。客商売に携わる参拝者も場 え、江戸時代より続未を彩る年中行事として、縁起物の熊手が売られている。11月 1日午前0時、一番太鼓の響きで始まる酉の市のにぎわいは格別。熊手を前に商連と売り手が見せる競り合いは見ものである。

作品提供：株式会社 ヴィジュアルフォークロア

よみがえる金色堂　1970年　44分

国宝中尊寺金色堂の、解体修理の模様を記録した作品。金色堂は藤原清衡がみずからの来世を祈願した別弥陀堂で、堂の内外に造多 金箔を張りこした目にも輝やかなかさを約束である。1962年より、国の補助を受けて 初の解体修理が７年間にわたって行われた。現代の職人たちの巧みの技が生き生きと描かれる。

作品提供：株式会社 日映科学映画製作所

明治の洋風建築　1972年　28分

日本における海外からの影響を受けた洋風建築を紹介。“お雇い外国人”の設計、監督のもとに建設された洋風建築を、結果的に日本風の技術をもって仕上げてしまう優れた伝統技術を持った石工や左官たちの技術も見逃せない。長崎に あるクバード邸をはじめ、多彩な様式と個性をもった洋風建築を次々と見せていく。

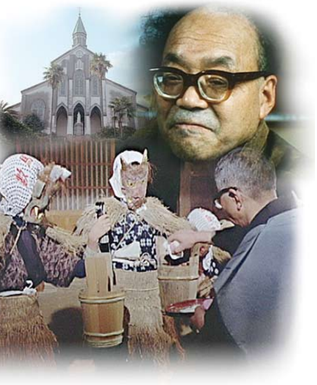
作品提供：株式会社 桜映画社

彫る　棟方志功の世界　1975年　38分

日本の誇る版画家、棟方志功（1903年～75年）の晩年の人と作品を記録した作品。72歳、もう左の眼は見えない、しかし、その旺盛な仕事ぶり、回孔のなさが印象的である。生い立ちから最新時の姿まで 可能量取材によって追い求め、その人柄を伝える。また、棟方版画館に展示されている「女人観世音」などの代表作が紹介される。

作品提供：株式会社 毎日映画社

山雲清聲　東山魁夷 唐招提寺障壁画の記録　1976年　28分

奈良市にある唐招提寺の障壁画の作成に日本画家の東山魁夷が取り組む姿を記録した作品。759年、唐の僧、鑑真によって創建された唐招提寺。御影堂には障壁画「鑑真和上像」が安置されている。その御影堂を障壁画で飾りたい、とする寺一門の敬意の思いに心動かされた東山画伯は、障壁画の製作に取り組む。

作品提供：株式会社 日経映像